

DraftReading (喫水線判読) の概略

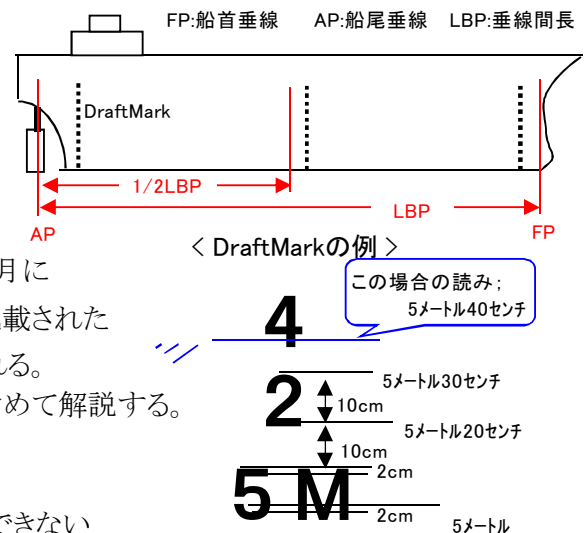
記述;DraftReading=船の水深を人の目で見極める(波の平均値を決定)事。 Surveyor=鑑定人、測定者

著者はこれまで約30年間のDraftReadingの経験があるが、Readingのテクニックは人により大きく異なっているようであった。Surveyorは自己の喫水線読み取り方法について説明の義務もない事から、第三者にはその方法が見えてこない。しかし、長年、Surveyorと喫水検査を共にすると、やがてReadingについても意見交換もできるようになる。

また、実際の測量でもSurveyorから著者の喫水線判読の意見も求められるようになる。著者は、このような経験からDraftReadingについて述べる事にする。

【DraftReadingの方法】

DraftReadingは人により異なるが最も一般的な方法は、波高・波低を数回記録してその平均値を採用する方法の様である。しかし、国内のベテランSurveyorでは、この方法は採用される事は殆ど見受けられない。それは1975年 5月に発行された日本海損事務所の『喫水検定ハンドブック』に記載された『2. 波の静止した所を読む』という手法によるものと推察される。著者は喫水線判読(DraftReading)方法を物理的な観点を含めて解説する。



1. 波の高い所と低い所の平均値を採用

波はサインカーブの形ではないので理論的には採用できない

この方法は多くのケースで実際の波より深く読んでしまう。(豪州手順書参照)

豪州諸島の検定会社の資料(the Australian institute of Marine Surveyor) 引用

4.1 Draft Reading in a Seaway

The following procedure may take up to 45 minutes, but the result is accurate.

4.11 Watch the wave movements until the pattern of high and low waves is ascertained.

4.12 With a series of moderate height waves (for the current conditions) note the mean of the highest and lowest draft readings.

4.13 Repeat the above step until twelve mean reading are obtained.

2. 波の静止した所を読む……日本海損事務所推奨方法

波の静止する水深は一か所ではないので、最初に止まった所で判断すると大変大きな誤差も発生する。

参考: 日本海損事務所によれば、波が数回止まった個所を平均すると良いと記載されている。著者は、小舟で海洋が荒れている場合に限り、この方法採用する場合がある。しかし、大船では海洋が荒れても採用しない。

3. 波の止まった最も浅い所を読む

この方法でほぼ正しいReadingができる。しかし、傾向としては実際より浅く読んでしまう事があるので、著者の場合、波が高ければ高いほど、この静止した水深から目安で少し深く読む。・・2頁にその理由を述べる。

著者からの提言

- ①人によりDraftReadingの方法は、色々異なるが、何が正しいのか物理的観点から問題点を明らかにする事が大切。
- ②国内統一見解として、Readingの教科書が必要。・・机上の理論に固執しないことが大切と述べる。
- ③上記、①を明文化すれば、素人でも直ぐにプロの目になる事と、反対に①が分からないままであれば、何時まで経っても上達しないようである。著者はSurveyor同士の意見交換が、何より大切だと思う。